

# 第18回「浦和ゆかりの講談二題」

今回は、新作講談「幕末の英傑・小栗上野介忠順（ただまさ）！」と「小栗上野介ゆかりの普門院！」の2題を、さいたま市出身の講談師・神田山吹が一挙初演、熱く語ります。皆さまのご来場をお待ちしております。



## 女流講談師 神田山吹

さいたま市出身

1994年 2代目神田山陽に入門

1999年 二つ目昇進

2006年 真打昇進

2009年 第1回浦和ゆかりの講談会より、ご出演戴いています。



第16回講談会風景 2024年7月

## 演目1 「幕末の英傑・小栗上野介忠順！」初演

文政10年（1827）、小栗忠順（ただまさ）は2500石取りの旗本・小栗定高の八男として江戸駿河台（現千代田区YWCA会館）で生まれた。9歳から屋敷内の安積良齋塾、武芸は直心（じきしん）影流道場の他、砲術・柔術の道場にも入門、その「文武の才」が注目されて、20歳で江戸城西の丸書院番に登用。その後外国船警備役で異人との交渉力を磨き、安政7年（1860）の「日米通商条約批准書交換使節」に抜擢。交渉手腕の功績で、帰国後、勘定奉行に昇進。アジア最大規模の造船所建設計画をフランス技師と練り上げ、徳川慶喜承認のもと、フランスから240万ドル借款約定を結び、完成した横須賀造船所は、「明治新政府の国益」や「日本の近代技術」発展に大いに寄与しました。

## 演目2 「小栗上野介ゆかりの普門院！」初演

慶応4年正月、江戸城内で薩長軍との和平・抗戦をめぐる大評定が行われ、勝海舟の恭順論に傾いた徳川慶喜は、抗戦論を主張する小栗上野介の職を剥奪。同年2月28日小栗上野介は屋敷を引き払い、30日上州・権田村の東善寺で仮泊を始めた。観音山に家屋普請を着手したところ「容易ならざる陣屋普請の趣き云々・・・」の『追補状』を持った追討兵が寺を囲み、1度は銃器一切を引き渡し引き下がったが、閏4月5日、今度は激剣家・原和太郎らに捕縛され、翌6日早朝、家臣3人と共に烏川の河原で斬首された。15歳以下の少年で厄を逃れた小栗家の小姓・武笠銀之介（後の三室村々長）は、館林の「東山道総督府」の首実検の後、法輪寺に曝されていた主君上野介の鬘を住職から戴き、夜を徹して大成村普門院に届けた。鬘髪は和尚により小栗家の墓所の一角に、自然石を墓標に名も刻むことなく供養、昭和9年娘婿の小栗貞雄は「小栗首塚」を新たに建立した。



小栗上野介・普門院和尚との訣別図



小栗首塚

【日時】令和8年7月5日（日） 午後1時45分開場・午後2時10分開演、4時10分終演予定

【会場】浦和駅東口前コムナーレ10階多目的ホール

【応募方法】参加ご希望の方は、下記の手順でお申し込み下さい

- ① 右のQRコードより浦和ガイド会のホームページにアクセス。
- ② “募集イベントのご案内”にある当イベント紹介欄の「お申し込み画面へ」のボタンをクリック、表示された申し込み方法画面の各項目を入力し、「送信」ボタンをクリック。  
・参加ご希望のイベント名には、「講談」と入力、ご応募の方含め3名まで申し込み可能。  
QRコードのみのお申し込みとさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします



【申込期間】2026年6月12日（金）9：00～23日（火）先着順

【募集人数】200名 【参加費】お一人800円（当日会場受付にてお収めください。）

主催：さいたま市観光ボランティア・浦和ガイド会

☎080・6538・1054（月～土9：00～17：00 当日10：00～14：00）

（浦和区市民活動ネットワーク連絡会・公益社団法人さいたま観光国際協会会員）